

オノマトペの掛け声が料理の動作に与える影響

The Effects of Onomatopoeia Shout on Movement of Cooking

藤野良孝

Yoshitaka Fujino

要旨

本研究では、醤油を入れる動作でたびたび表現される「チョロッ」、「ドバツ」、「ポタッ」、塩をふる動作でたびたび表現される「パラパラ」、「サッサッ」、「シャカシャカ」のオノマトペに着目し、それらの掛け声を実際の動作にどのような影響を与えるのかを分析・考察した。その結果、オノマトペの掛け声の種類に応じて醤油の入れる量に差異が認められたこと、塩の散り具合に変化が見られたことが分かった。このようなオノマトペの掛け声によって微妙に動きや量が変わることから、料理の効率的な作業や指示を行う際に役立つ可能性が示唆された。

1. はじめに

オノマトペとは、擬音語（「わんわん」、「じゅー」など）と擬態語（「きらきら」、「どきどき」など）のことを総称した言葉である（小野 2007）。近年、オノマトペはマスメディアの情報発信によって、随分と言葉の意味を知る人が増えてきたようだ。オノマトペの普及と進展に伴って、ただオノマトペという言葉を知っているだけではなく、それを使って「どんなことができるのか」が問われるようになってきている。

オノマトペの研究としては、スポーツ指導・教育（藤野 2008、川本 2010、千嶋ほか 2016）、子ども教育（藤野 2013）、音楽教育（岡林・佐野 2016）、家庭科教育（藤野 2017^{a),b),c)}、デザイン支援（坂本 2016）など、様々な分野での実践的な活用・試みが本格化されている。しかしながら、オノマトペは未開拓な部分が多く、汎用的かつ効果的な使用モデルを示すためには、分野ごとに課題点を探求・フィードバックして知見を蓄積・定型化していくことが不可欠であると考えられる。

例えば、日常的に「醤油はチョロとね」、「ドバツと入れたらだめよ」などと会話で使用されることがあるが、この「チョロ」、「ドバツ」が示す意味が「なんとなく」であり、オノマトペを使うことでどのような利点があるのか解明の途上であると言える。こうした一例のように、オノマトペの研究が持たれている潜在的な課題は多数あると考えられる。

そこで筆者は、身近な事柄として「醤油を入れる」際に使用されるオノマトペ「チョロ」、「ドバツ」、「ポタッ」、「塩をふる」際に使用されるオノマトペ「パラパラ」、「サッサッ」、「シャカシャカ」に着目し、オノマトペの発声に伴った動作が、醤油の量や塩をふる範囲にどのような影響を与えるのか分析・考察することを目的とする。

2. 実験方法

本実験では、オノマトペを声に出しながら、実際に醤油を入れる動作、塩をふる動作を行い、これらの結果を比較することによって、動作に影響を与えるのかどうかを分析する。

2.1. 実験協力者 大学生男女 11 名 (平均 19.7 歳)。

2.2. 実験の道具 実験で使用する調理容器、道具などを図1に示す。容器は、一般的な家庭や飲食店などで使用されるものを選定し 100 円ショップで購入した。醤油の測定用に、お皿とビーカーを用意した。塩のちった様子が鮮明に観察できるように真っ黒の用紙を用意した。

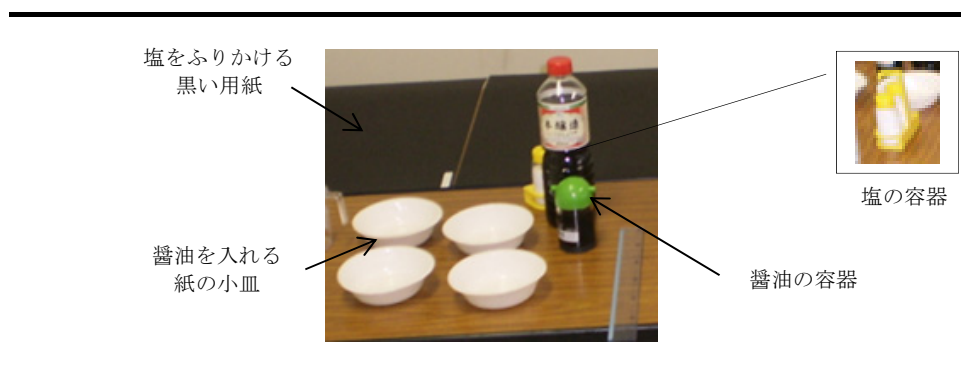


図1 実験に用いた道具

2.3. 実験手続き

2.3.1. オノマトペの掛け声に伴って醤油を入れる実験の手続き

研究者 1 名及び実験助手 1 名は、以下に示した内容を被験者に伝えながら 1 名ずつ実験を行った。実験終了後、お皿に入った醤油をビーカーに移し、醤油の入っている高さまで定規をあててミリメートル (mm) の単位を確認して記録を書き留めた。実験後、感じたことをコメント欄に記載してもらった。

<説明文>

『今から、この道具を使って小皿に醤油を入れてもらいたいと思います。お刺身を食べる場面をイメージして下さい。
まずは、いつも通りに醤油を入れて下さい。10回お願いします。
次に「チョロ」といって醤油を入れて下さい。10回お願いします。
今度は「ドバツ」といって醤油を入れて下さい。10回お願いします。
最後に「ポタツ」といって醤油を入れて下さい。10回お願いします。』

2.3.2. オノマトペの掛け声に伴って塩をかける実験の手続き

先と同様に、以下の内容を被験者に伝えながら、1 名ずつ実験を行った。

<説明文>

『今からこの道具を使って、塩を 5 回分かけてもらいたいと思います。
まずは、いつも通りに塩をかけて下さい。次に「パラパラ」といって塩をかけて下さい。
次に「サッサツ」といって塩をかけて下さい。
今度は「シャカシャカ」といって塩をかけて下さい。
最後に、いつも通りを基準にして、他の 3 つがどうなったか、黒紙の塩の様子を観察して、お答えください。』

3. 結果と考察

3.1. オノマトペの掛け声が醤油をかける動作に与える影響

オノマトペの掛け声に伴って 10 回醤油を入れる動作を行った結果、「ポタッ (平均 2.55、SD:1.37)」、「チョロ (平均 3.64、SD:1.12)」、「ドバッ (平均 9.73、SD:2.10)」の順番に量が増える傾向が分かった (図 2)。オノマトペ条件の比較として「いつも通り」でも測定したところ平均 7.64 であった。

醤油の量に関して考えてみると、表 1 に記したオノマトペ辞典の意味が醤油の量にも反映していることが窺え、オノマトペの掛け声ごとに、動きが微妙にコントロールされていると推察される。

さらに、「チョロ」、「ドバッ」、「ポタッ」における醤油の量の差が統計的に有意であるかを分析するために一元配置分散分析を行った。その結果、有意であった ($F(2,30)=3.32, p<.001$)。すなわちオノマトペによって醤油の量の平均に差があることが分かった。

実験後のコメントでは、「「ポタッ」はしずく 1 滴のイメージで少なくしました。」、「「チョロ」はほしーいけど、いつもより少ないくらいっていうイメージです。」、「「ドバッ」といれたほうがいきおいが出て多くなった。」と述べられていたように、音から動きのイメージが既に作られていることが髣髴された (表 2)。また、「声にだして普段から量を調整したいです。」という肯定的なコメントもあり、オノマトペをだすことで理想的な量が出せたと考えられる。

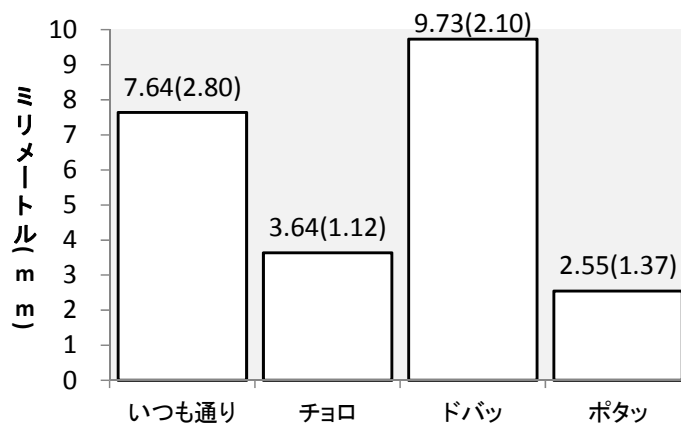


図 2 オノマトペの掛け声に伴って入れた醤油の量の平均と標準偏差

表 1 醤油入れで使用したオノマトペの意味

ぼ た っ	ち ょ ろ っ	ど ば っ
水滴や水分を含んだもののかたまりなどが、にぶく一つ落ちる音。	軽く事を行うさま。また、わずかなさま。	大量のものが、勢いよくふき出るさま。

注)小野正弘 著 編集(2007)「擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典」(小学館)から引用。

表 2 実験協力者のコメント一覧

①	ドバツといれたほうがいきおいが出て多くなった。
②	「ポタッ」の方が少なめなのでいいかなと思いました。「チョロ」はほしいけど、いつもより少ないくらいというイメージです。
③	「ポタッ」はしずく 1 滴のイメージで少なくなりました。「どぼっ」はこんなにも出していいのかな？ ってぐらい出していました。
④	「ポタッ」は 1 滴をイメージしました。「どぼっ」は多く流れるのをイメージしました。
⑤	「ポタッ」は、滴をイメージしてやった。「ドバツ」は、手を、若干、大きめに傾けてやった。
⑥	口に出すことで入れやすい。
⑦	ドバツが以外に量が多かった。
⑧	チョロとポタはイメージが近かったのか同じ結果でした。
⑨	おもしろかった。
⑩	声にだして普段から量を調整したいです。
⑪	ポタッがおもいのほか出ってしまった。

3.2. オノマトペの掛け声が塩をふる動作に与える影響

実験協力者には、黒の画用紙の上で「いつも通り」、「パラパラ」、「サッサッ」、「シャカシャカ」の順番で塩をふりかけてもらった後(図 3)、「いつも通り」を比較基準にして塩の様子を観察してもらった結果、表 3、図 4 に記したような特徴が分かった。観察したコメントの結果から塩のふりかけた様子を考察すると、「パラパラ」は、「③広範囲になった」、「⑦全体的に飛び散った」などのコメントが多いことから、ふりかける手の動きが全体的に大きいことが分かった。

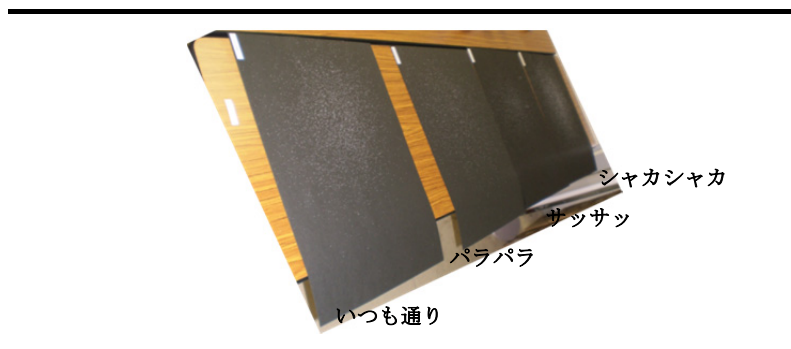


図 3 塩の散った様子

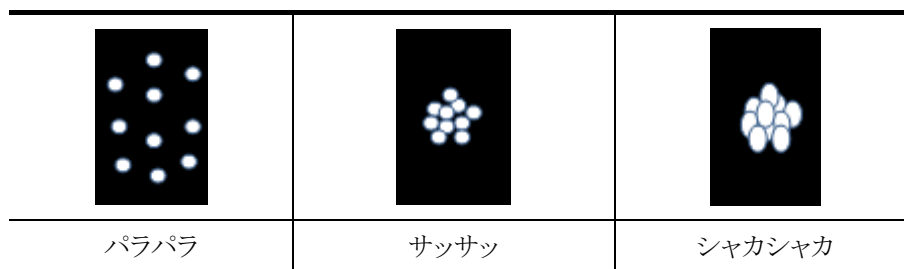


図 4 オノマトペ別から見た塩の散るイメージ

表3 通常の塩ふりとオノマトペ別の塩ふりを観察した際のコメント

番号	パラパラ	サッサッ	シャカシャカ
①	いつもより全体にひろがった	いつもより前のほうにかかった	かける量がいつもより多くなった
②	いつもより広範囲に広がった	中心に広がりつつ、いつもより平等にかかった	量がいつもより多くて、まん中に多くかかっている
③	広範囲になった	全体に広がりながら、中心に少し多めになった。	いきおいよく、多くかかった
④	広くまけていた	ところどころに固まる部分があった	多く塩がまけた
⑤	量が少なめなので、まんべんなく広く広がった	少し、中心にかたまっていた	縦に広がっている
⑥	全体的に飛びちっている	真ん中に集中的にある	全体的に大量
⑦	全体的に飛び散った	真ん中に集中している	大量で真ん中によっている
⑧	真ん中にやや集まっている	集中してる	一番広がっている
⑨	散乱している	真ん中に集まっている	真ん中に集まっている
⑩	全体にふるかけることができました	塩分をひかえめにすることができました	リズムカルに簡単にできました
⑪	一番少ない	広く結構多い	まん中に集中している

※セルは、似ている内容ごとに色彩（紫、緑、青）をつけた。

「サッサッ」は、「②中心に広がりつつ、いつもより平等にかかった」、「⑦真ん中に集中している」といったコメントが多い傾向から、手を上下にコンパクトに動かしてふりかけていることが分かった。「シャカシャカ」は、「②量がいつもより多くて、まん中に多くかかっている」、「⑦大量で真ん中によっている」に代表されるように、「サッサッ」と類似する動きではあるが、「シャカシャカ」の方が、発声する音が長い分、動きも音に伴って大きくなり強くふられたと推察される。また「サッ」は、オノマトペ辞典において「動作が軽くてすばやさ」とあるように、軽やかな印象を有している為か、分量的に見てもふりかける勢いはさほど大きくない傾向が観察された。

4. まとめ

オノマトペの発声に伴って醤油を入れる、塩をふりまくことで、醤油の量や塩をふる範囲にどのような影響を及ぼすのか実験を行い、以下のことが分かった。

- (1) オノマトペに伴って醤油を入れる実験では、「ポタッ」、「チョロ」、「ドバッ」の順に醤油の量が増えた。また統計的にも有意であったことから、オノマトペによって醤油の量の平均に差が生じることが分かった。
- (2) オノマトペに伴って塩をふりかける実験では、「パラパラ」は、ふりかける手の動きが全体的に大きくなるのが黒紙にまかれた塩の様子から分かった。「サッサッ」と「シャカシャカ」の動きは類似する傾向が分かったが、「シャカシャカ」の方が「サッサッ」よりも音が長い分、手の上下動も大きく

なり強くふられることが、黒紙にまかれた塩の様子から推察された。

オノマトペの発声に伴いながら動かすことで、醤油の量や塩をふる特徴が変わることから、他の動きにおいても大いに汎用することが期待できると考えられる。また、今後は動きが変わる、特徴が変わるという視点だけではなく、より高い精度で再現できるかが必要になってくる。そのためには、オノマトペの発声(声の高さ、強さ、長さ)による違いも吟味していくことが求められるだろう。

付 記

本研究は「脳と体の動きが一変する秘密の「かけ声」」(青春出版)、「毎日の生活が楽しくなる「声の魔法」①「声の魔法」を使ってみよう」(くもん出版)の著書の一部をもとに、より具体化、詳細化し加筆したものです。本実験にご協力して下さった学生の皆様、実験助手をして頂いた澤田さんに深くお礼申し上げます。

参 考 文 献

- [1] 小野正弘 著 編集(2007)擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典 小学館
- [2] 千嶋崇、橋場杏奈、米谷雄介、谷田貝雅典、永岡慶三(2016)裸眼 3D 視線一致型テレビ会議システムを用いた遠隔スポーツ指導におけるスポーツオノマトペの効果 日本教育工学会研究報告集 16(1), 329-332, 2016-03-05
- [3] 藤野良孝(2008)スポーツオノマトペ 小学館
- [4] 藤野良孝(2013)子どもがグングン伸びる魔法の言葉 祥伝社
- [5] 藤野良孝(2017^{a)})毎日の生活が楽しくなる「声の魔法」①「声の魔法」を使ってみよう くもん出版
- [6] 藤野良孝(2017^{b)})毎日の生活が楽しくなる「声の魔法」②クッキングがスイスイできる くもん出版
- [7] 藤野良孝(2017^{c)})毎日の生活が楽しくなる「声の魔法」③家の手伝いがワクワクする くもん出版
- [8] 川本和久(2010)足が速くなる「ポンピュン走法」 マキノ出版
- [9] 岡林典子、佐野仁美(2016)オノマトペと動きによる表現活動に関する考察—絵本を用いた実践をもとに—学校音楽教育研究 Vol. 20 p. 219-220
- [10] 坂本真樹(2016)オノマトペ(擬音語・擬態語)による質感印象の定量化：金属調加飾デザイン支援への応用事例 (特集 ものの質感評価と再現技術の産業利用) 精密工学会誌 82(11), 939-943

藤野 良孝 (経営学部ビジネス企画学科准教授)